

## 第3回南牧村小中学校建設検討委員会 議事録

### 議事日程

平成29年7月10日(月曜日)午後7時05分開会

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 討議  
①小中一貫教育について
- 4 その他
- 5 閉 会

---

### 本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

### 会議出席委員

嶋崎 稔夫 井出 松久 菊池 今朝造 片桐 勝則 高見澤 正洋 新海 文人  
井出 邦彦 高見澤 みち子 高見澤 ふみ子 矢野 勝彦 水澤 良光 武井 晃  
井出 正吉 新海 勝則 菊池 武元 渡邊 忠一郎 薩田 美穂 高見澤 眞  
高見澤 美夏 上村 和加子 今井 澄江 輿水 昌代 松山 幸代 湯浅 麗 岡田 加佳  
江川 尚友 井出 永一 宮下 博満 湯浅 夏美 高見澤 臣美 板山 笑子 嶋崎 一尚  
井出 實 井出 泉 渡邊 壽美 林 崇介 (以上36名)

欠席11名 新海 昇 高見澤 俊彦 新海 秀幸 坪井 則男 井出 昭彦 井出 将光  
新海 一禎 天川 千保香 菊池 俊志 輿石 剛 高見澤 俊彰

---

### 事務局職員出席者

総務課 企画係長 井出 聡  
教育長 井出 英夫 教育次長 井出 浩美 学校教育係長 井出 一生 今井 征弥

---

### 開会 午後7時05分

#### ◎開会

事務局井出次長 それでは、お待たせいたしました。会議開会の時間になっておりますので、ただいまから始めさせていただきます。本日は、お子さん連れの方もいらっしゃいますけれど、皆さんよろしくお願ひします。それでは開会のことばを林副会長よりお願ひします。

**林 崇介副会長** 皆様こんばんは。それでは第3回南牧村小中学校建設検討委員会を始めます。どうぞ皆様よろしく申し上げます。

◎会長あいさつ

**事務局井出次長** 渡邊会長よりご挨拶をお願いします。

**渡邊壽美会長** どうもみなさんこんばんは。暑い日が数日続きまして、梅雨が明けたかなと思う訳でありますけれど、梅雨の間に台風が来襲したり、北九州では豪雨による相当の被害が出ているところでもあります。まだ5日に降った雨が今日も降り続けているというところでございます。そんな中で当地の産業であります野菜の価格が低迷しているということでもあります。皆さん、忙しい日が続いていると思えますけれども、今日はお集まりをいただきましてありがとうございます。第1回目、第2回目と今日は3回目になるわけですが、2回目が小中一貫校の説明、勉強をしたわけでありますけれど、今日もそれに合わせながらやっていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

**事務局井出次長** それではこれから討議に入っていただきますが、会長の進行でお願いします。

**渡邊会長** それでは今日の次第でありますけれど、協議することという印刷物によりまして進めていきたいと思えます。①三校存続、②小学校のみ統合、③小中一貫教育ということで。資料行ってないですか。印刷物はないということですが、①三校存続、②小学校のみ統合、③小中一貫教育ということでもありますので、どのような型を望むかの意見を、具体的な3件について意見を出し合ってもらいたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。前回、小中一貫校や義務教育の資料が渡っていると思えますのでその点についても、でなくてもいいですから、意見を寄せていただきたいと思えます。

**井出正吉 委員** 前の学校づくり委員会の答申で、小中一貫校でやるということで答申されていますよね。それについて今回やるじゃないですか。また小中一貫校の方だ義務教育だ、また元に戻るんですか。

**渡邊会長** 別に戻るわけではないですけども、その点について、もしご意見があるようだったら。

**井出正吉 委員** だからわかんないことを聞くということですか。そうじゃなくて討論するということですか。討論するということですか。そうじゃなくて、わかんないことだけを聞くということですか。

**渡邊会長** そうですね、意見を言ってもらおうということですよ。

**井出正吉 委員** 前の答申が無意味になりますよ。

**渡邊会長** 無意味とかそういうのじゃなくて、新しい人もおりますので、意見を聞きたいということですよ。

**井出正吉 委員** だって答申が出ていて、小中一貫校でやるということ、それに基づいて会議開いてるじゃないですか。

**渡邊会長** 学校づくり委員会に出席されている人は確かにそうなんですけれど、もしあり

ましたらということでお願いします。はい、教育長。

**井出教育長** 区長さんおっしゃる通りなんですけれども、実は、1回目と2回目、おさらいのような形で小中一貫校、村の教育ビジョンの説明を新たにして参りました。区長の皆さんは昨年一年間、何回も、重々聞いて、確かにおっしゃる通り小中一貫校が望ましいという答申をしてございます。なおかつ付帯意見として、小中一貫教育の研究を深めるということで、村長に答申をしているのは事実でございます。今、会長が、ご意見を伺いましたのは、前回の中で保護者の皆さんの方から、なかなか小中一貫校が良いのか判断ができないというような声、あるいは専門の方のご意見を聞きたいなというご意見等など出ております。あとメリットあるのか、デメリットあるのかと聞きたい。そんなことで今回は意見をお聞きしただけでございます。膨大な資料もお持ちいただいて皆さんも読んでいただいたと思います。今日はその中からまたご意見を、特に保護者の皆さんからご意見を聞きたいということでございます。区長さん、おっしゃるように元に戻ったという訳でなくて、ただ選択肢の中には今のままでいいという声もあるかと思えます。それとあと小学校だけとか、小中一貫教育がいいねということなので、この場はほんとにご意見を、特に保護者の皆さんからご意見を聞きたいということでご理解をいただきたいと思っています。

**渡邊会長** 教育長から説明がありましたように、学校づくり委員会に出席されていない方で、もしこういうふうにした方がいいよという意見がありましたらお願いしたいと思えます。

**上村和加子 委員** 北小上村です。幅広くいろんな人の意見を聞きたいということなんですけれど、何回か会議に出席していて、とても意見を言いやすい雰囲気じゃないなということがあって、この中で意見を、その上インターネットに議事録にも出ますよと言われると、保護者にとって負担がすごく大きいというところ、実際どの方にもあると思うんです。自分の言った意見に対して公表されてしまうと、村民に対して叩かれるんじゃないとか、そういうのって議員さんの立場と違って一般村民なわけで、ものすごく不安があって実際来ています。いろんな学校の議事録なんか見ても、実名を挙げてというのはなかなかないですね。ただAさん、Bさんという感じで。そういうような負担を軽くしてもらったりとか、もっと意見を言いやすく小グループでお話しをするとか、ざっくばらんに行きやすいような雰囲気で、もっと話が聞けたら事務局とかの、会長さん方と近かったりしてお話できた方がもっと皆さんが、ここってどうなのって意見がもっと出ると思うんですがいかがでしょうか。

**渡邊会長** 意見をどんどん出してもらった方がいいと思うんですよね。だからこれからもうちちょっと大勢の方に意見をお願いしたいと思えます。

**上村和加子 委員** だからそれをするために、もうちょっと小グループで、ざっくばらんに話ができるような形をとれないですか。このまま保護者の方どうぞどうぞと言っても、何のことを言っているのか分からないってのがあつて、こんなこと聞いたら簡単すぎる

かしら、こんな基礎的なこと聞いてもいいのかなとか、そんな方も結構いらっしやると思うので、こう大勢の中でなく、もう少し規模を縮めてお話ができた方がよりいろんな意見が聞けるんじゃないかと思うんですが。

**渡邊会長** はい、教育長。

**井出教育長** ごもったもな意見だと思いますが、実は事務局もそういう方式も考えてもいました。ただそれだと意見が出るだけで、集約とまとまりの方向性が出ないと心配いたしました。それと、できれば匿名でだれが発言したか分かんないようにして欲しいというのも分かるんですけど、実はここ傍聴も公開している、秘密会ではないので、そこはご理解いただきたいなと思いますが。それとも名前はやめて肩書だけにしちゃったほうが言いやすいとかありますか。

**上村和加子 委員** 例えば建設地だとかになるとバスが欲しいどうだこうだと北小の保護者が言ったとか、南小の保護者が言ったとか、中学の保護者が言ったとか誰が言ったとかとか。事務局で使うときは個人名まで入れていいと思うんですけど、こう公になってしまうとなると、お金が絡んでるとかでないんですけど、どう個人が言ったか特定する必要が特に無いんじゃないかなということがあるので、北小の誰かが言った、南小の誰かが言った、中学の誰かが言ったくらいで済むんじゃないかなとは思っています。

**井出教育長** これ、公開してるので、実際お名前と発言の内容を全て、今日も公共の方いらっしやいますけれども、そんな形にしているので、ここで公開しといて後でお名前は消して、AさんBさんという議事録で残すというのは、私どもは考えておりません。言いやすい場を設けるといのは必要かもしれませんけれど、会の運営をしていく中でご理解をいただきたいところがございます。

**上村和加子 委員** そしたらもう少し具体的に、例えばさっき1番何々、2番何々とおっしゃったようなことを次第としていただけるか、どっかに書いてもらえると、どれがいいかなっていうような分かりやすかったりするんじゃないかなと思う。読まれたけど、何を言ったかなと思いたすことは難しいので、さっき1番2番3番と言われたことは。

**渡邊 会長** はい、教育長。

**井出教育長** 海尻の区長さんがおっしゃったように、昨年1年かけて学校づくり委員会をやってまいりました。その中で、一番最初さっき言ったように小学校そのまんま、中学校そのまんまでいきましょう。子ども達がこれだけ少なくなっているんで、小学校は統合しましょうと意見が出ました。それから子どもが少なくなっていく、それから今全国でも導入が始まっている小中一貫教育あるいは義務教育学校、どうせ作るんであれば考えましょうという3つの中から始まっています。去年は学校の校長先生、教頭先生入った中で専門部会を設けて、これ皆さんにもご説明していると思いますけれども、小中一貫教育を進める中で南牧村の教育ヴィジョンを皆様にお示ししたと思いますけれど、それを検討しながら小中一貫教育が望ましいという答申まで至った経過がございます。ですから皆さん初めて出てこられて、いろいろご意見があるかと思っておりますけれども、お聞

きしたいのは、子ども達がこれだけ減っていく中で学校の存続の方針を、どういう方針がいいのかというところを今日、ご意見をお聞きしたい。ところが、会長が皆さんにどうですかと言ったものであります。そういうところなので、特に資料などは用意してありません。今言いました点につきましては、事前に皆さんに配った資料の中にQ&Aが載っています。3校そのままなのかといろいろなパターンを示しています。これは昨年、区長さんの皆さん入られたり、皆さんの先輩の去年PTAの会長さんだとかが入って一年かけて協議してきた内容の結果が、去年12月に答申として出されたところでございます。

**上村和加子 委員** そこに戻るというわけではなく、それに対して意見があればという形ですか。

**井出教育長** そういうことです。ですから前は、小中一貫教育メリットあるの、デメリットはどこなんだろうということを専門家に聞きたいとか、講師の方を呼んでやってほしいとかそういう意見が前は出ております。

**上村和加子 委員** その計画は特に今はないですか。

**渡邊 会長** これからご意見をいただいて、次にそういうあれを考えていくということになると思います。講師を呼ぶとか見学するとかは。では中学のPTA会長さん。

**嶋崎一尚 委員** 中学校のPTA会長嶋崎です。答申出たことに意見を言ってくださいというのには、個人的には小中一貫でいいんじゃないかと思うんですけども、肝心のこの委員以外の保護者の方々がどこまで理解しているかということは、甚だ疑問のところがありまして、そういう人たちに説明したって総会なりホームページで説明はしていませんけれど、では実際どれほど周知されているかというのと、それほど周知されていないんじゃないか。それぞれに興味のある人、興味のない人様々だと思うんですが、そういう人たちに対しても、しっかり説明をもう一度きちんとした方がいいと思うんです。それで僕たちは肩書で代表で来ていますけれど、自分たちの意見言わないわけではないんです。ですからそういう機会を是非作っていただいて、そういうところからしっかり意見を拾い上げていただきたいと思っておりますけれど、特に保育園の保護者会長さんとか、どうお考えでしょうか。個人的には興味があるんですが。僕は中学校なので、実際、学校ができますよ、できた時にはもう子どもいませんよという形になってしまう人が多いんですね。ですからできるだけ小さいお子さん持っている方から意見を聞いてみたいというのが私の意見です。

**渡邊 会長** それでは保育園の保護者会長さんお願いします。

**井出永一 委員** 南牧保育園の保護者会長井出です。これから言うのは全部自分個人の考えなんですけれど、僕なりに保護者の方にいろんな意見を聞きたいと思って、顔を合わせたときは、こういうことをやっているよと聞いたりしますし、やっぱり日頃の忙しさだとかいう中で、なかなか興味深い人、浅い人いろいろいるのが現実です。ですけど、これから子どもが少なくなってくるので、やはり小中一貫の方がにぎやかにできるのではな

いかというのが個人的な意見です。ホームページも見れる人が大勢だと思いますが、やはり会長という立場ですし、これからも、こういうことやっています、三回目が今日ありましたということ保護者の方に周知していきたいと思っています。あと何か。

**渡邊 会長** どうもありがとうございました。それでは野辺山保育園の保護者会長さん、お願いします。

**宮下博満 委員** 個人的な意見でいいということなので言わせていただくと、僕すごい受身な人間なものですから、学校建ちますよと言われたら、ああそうですかいいんです。でもこういう機会をいただいて、自分の意見が学校づくりに反映されるのであれば、それは積極的に参加していきたいんですけども、今のままだと何に意見をしていいのかわかって全然わからないですよ。なので議題、もっと細かくしていただいて、小っちゃいことにみんなで意見を出し合うという方が、話が進んでいくんじゃないかなというふうに思っています。

**渡邊 会長** はい、ありがとうございました。はい、教育長。

**井出教育長** ありがとうございます。おっしゃるとおり、この学校建設検討委員会も大きな中でやっているの、今言われたように細かいところの議論なかなかできないところです。これから皆さんの意見が、なから方向性が固まってきて、小中一貫でいいよとなると、建設地はどこにするんだと進みます。そこまで行くと、今度はいろいろの部会を設けて、これは前皆さんにご提示してあると思うんですけど、部会の中ではもう少し小さなグループに分かれて、一個一個細かいことを積み上げていくという作業になると思います。今それに入る前の大雑把な段階ということで、一応、学校の建設の方向性をまず大きなものをここで決めていきたい。もう少しお待ちください。

**宮下博満 委員** 例えばなんですけれども、あまり人前で話すの好きじゃないんで、こういうところで意見をしづらいという方、今参加していて僕も思うんですけど、方向性だけでも、小中一貫校にしても、どういう形で小中一貫校にするかとか、三択というか選択のできる、投票じゃないんですけども書面で意見を集めたほうが、まず方向性をまとめるにはいいかなと思います。どうなんですかね。

**渡邊 会長** 分かりました。そういう意見もあったということで、あとPTA会長さんから、北小の副会長の井出さん。

**事務局井出次長** 来てないです。

**渡邊 会長** 北小の6年学年部長さん。それでは南小の学年部長奥水さん。

**奥水昌代 委員** 私、第1回目にお話したとおり、小中一貫教育になることは仕方のないことだと思っています。下の子がもう3年生なので、あまり深くかかわることはないだろうなと思っていて、保育園の直接かかわる保護者の意見を大事にすべきだと思っています。小中一貫も仕方がないと思っている矢先に、小中一貫こんなところが悪いんだという評判を耳にすると、これからここで育っていく子ども達のことを心配になりますし、子ども達にとって一番いい方法で話を進めていただきたいと思います。この会議

去年からやってらっしゃると聞いたんですけれど、人から聞いたのは、それよりもっと前から同じことをぐるぐるぐるぐる繰り返してやっていると聞いてまして、もう一歩進んだ、前回来なかったんですけれど今回来て、あんまり1回目と変わってないなという印象を受けてまして、進めるならもっとうまく、もちろん皆さんの意見を聞きながら進めなければいけないとは思うんですけれど、もうちょっと進んで行って欲しいなという、さきほど両保育園の会長さんから意見がありましたけど、書面とかで、いいづらい人は書面とかでやるとか、いろんな方法あると思うんですけれど、いい方法をとって、子どもが少なくなってきたのでスピード感というか、もうちょっと早く進んでいただけたらと思います。以上です。

**渡邊 会長** はい、ありがとうございます。南小の湯浅さん、お願いします。

**湯浅麗 委員** 湯浅です。私は、小中一貫校にすることを他の村民の方があまりにも知らない。私はこの会議に出て、初めてこういうふうに進んでいるんだと思いました。この小中一貫校に決まって、その事実を村民の皆様へ伝えた後にどうなっちゃうのかなと漠然とした不安があります。もちろんインターネットとか広報に載っているんです。私も見ました。だけどほんとに見ていない方ってすごい多いと思います。だからそれ、すごく不安だなんて。広げられるかなって。この前の話し合いの時に不安を感じました。

**渡邊 会長** ありがとうございます。

**板山笑子 委員** 野辺山保育園の板山なんですけれど年少の、ママ友、お母さんたちとちょくちょく集まる機会があるんですけれど、保育園とかこれから子どもを育てる方と集まる機会があるんで、その時は平沢の中で集まる機会があったので、ヒアリングみたいな形で、その小中一貫校に対して聞くかなと思って提案してもらったので、半分くらいの人小中一貫校の建設自体を知らなくて、それにもびっくりしたんですけれど、まず小中一貫校のメリットが見えてこない。どうしても、答申で望ましいということが言われたので、望ましいというのはあくまでも望ましいなので、ちょっと分かりづらい。私も質問する際に、じゃあ建設するのしないのという時に、前回休んで今日来たら、建設地、建設時期という、なんか説明があって作るんだろうなと思ったんだけど、それに対して結局自治体でも地区でも一旦、村の方なりが小規模で説明会を開く責任が絶対あると思うんですよ。じゃないと結局、私たちの答えは個人的見解なので総意ではないと思うんですよ。それを私たちの知らないところで、じゃああなたたちは何をしてくれたのというふうになると思うんですよ。委員会で決めたことって、前年度は望ましいってことだったんですけれど、結局たぶん作るってことになるのと、じゃあ私たちがそれを止めてくれなかったのとか、じゃあどういうふうにか小中一貫校のカテゴリを作ってくれるのかとかパターンがあるだろうっていうふうに言われると思うんですけれど、結局そういうのが全く見えないまま話だけ進んでしまったので、結局村としては小中一貫校をどういうふうに作りたいとか、どこまである程度決まっているのとか、明確な表示がないと私達が本当に伝えることができないし、結局村としてもそうだと思うんですよ。なので誰

にも伝わらないで結局作ってしまったということになって、結局困惑するのはお母さんだとか、これから子どもを入れたい人達だと思うんです。なのでできるだけ保育園とか小学校だとか小規模で説明会、今これだけ決まっていますよ、こういう考えがありますよ、こういうパターンがありますよというのは、説明をしてほしいのと、やっぱり小中一貫校の弊害というか、いじめ問題、中1ギャップ、高1ギャップがあると思うんですけど、いじめの問題って9年間すごい長いと思うんですよ。いじめを1年生から受けていたら9年間ずっと引きずらないといけないとしたら、命に関わる問題だなという話があったので、それをどう守るかというのは本当に大人の責任だと思うんですけど、例えば北杜市かだと話によると、小学校が提携を結んでいて、いじめを受けた子が小学校を自分で選択して転校できるっていうシステムがあったりだとかするらしいんです。ここだと北小から南小に行きたいだとか、南小から北小に行きたいとかの幅がなく、もうずっとここでいじめられなきゃいけないというつらさを考えた時に、ここに住みたいかなという疑問は小中一貫校作る際に考えましたね、自分でも。なのでいろんなパターンとかも作ってもらえたら、またそれを説明してもらえたら親がすごく安心すると思うんですよ。ここに住みたいって思える小中一貫校づくり、施設をいくつかに分けるとかいろんなパターンができると思うので、そういうの含めて説明会を一回開いていただきたいんですけど、開く予定ありますか。

**渡邊 会長** どうもありがとうございます。教育長。今お二方から意見が出ましたが、その点について今後の予定を。お願いします。

**井出教育長** いろんなご意見ありがとうございます。悪いうわさ聞いてびくっとしたんですけども、そうですか、いろいろ噂が出てもいいと思いますし、スピードを持ってやってくれというお叱りもいただきました。ありがとうございます。不安があるというのは確かにあると思います。一步新しいところへ出ていく、学校を統合するだけでも新しい道へ進む。子ども達にとっても大変負担があるかと思えます。我々としても信濃町とか佐久穂町という先に統合したところを視察させていただいてきたわけでございます。当然、メリット、デメリットもございます。メリットだけ、だいたい私達もそこしか目がいけないわけですけども、ただ新しい教育方針が出てきても、今のままだも当然デメリットはあるわけでございます。新しい教育方針に入ったとしても、その中でデメリットを一つ一つ解消していくというのは、どういう教育形態を取ろうとも大事だと思っております。皆さんの不安を解消するために、これからも努力していきたいと思っております。それから、村民の皆さん、保護者の皆さん、なかなかまだ知らないという小中一貫校について、これは前回もそうでしたけれども、私達の広報というか皆さんへの周知の仕方がまずかった面もあるかと思えます。そこは見直していきたいと思えます。当然私どもは住民の皆さんへ説明をする時期があるかと思えますが、教育委員会で考えているのは、教育方針が新しい小中一貫教育をやっていく、学校についてもどの場所にどのような形態で作る、そういうところが、大まかな一定の方針が出たところで

説明したいと思います。何も出ないところで説明しても、ただ説明倒れに終わってしまうと危惧しているところでございます。こちらで住民に説明するには、ある程度の方向性が固まったところで、村の教育方針の方向というものを説明していきたいと思っております。小中一貫校を9年やっていくときに、いじめのこととか成長の問題と、いろいろと不安な点が多々あるかと思えます。会長。今日は両小学校と中学校の校長先生来ています。南小の水澤校長先生は今年4月に来たばかりですけど、中学校の武井校長、北小の矢野校長、去年小中一貫教育というか村の教育ヴィジョンを作成するときの専門部会に関わっていただいていますので、このあと時間をいただいて、学校の方からいろいろご父兄の皆さん保護者の皆さんから出た不安等も含めながら、あるいは小学校、中学校の立場からご発言をいただきたいと思えます。会長、お願いいたします。

**渡邊 会長** それでは去年、学校づくり委員会専門部会の会長をやっていただきました中学校の武井校長先生から、お話をお願いしたいと思います。

**武井晃 委員** よろしくお願ひします。ホームページとかで小中一貫校や義務教育学校等を見て知っているかと思ひますけれど、昨年見学させてもらったり勉強して、また今の中学校の教室から考えて、こんな点がいいなというのをお話ししたいと思います。最初は、中学校は1校しかありませんから小中一貫になっても中学校の生徒の人数が増えるわけではないですから、人数が多くなっていいということは特に関係ありません。その中でどんなメリットがあるかというところまず、信濃義務教育学校訪問の時に、こんなこと言っていました。小学生と中学生にとって小学生との関わり、特に1・2年生と関わることによって、中学生は人間的に成長する。小さい子をケアしながらも自分の心が温まる。9年生が1年生と手をつないでいる。入学式で誘導するところから始まって、中学生が小学生と触れることで、非常に思いやりの心が育ったり自分も成長すると言っていました。そんな点もいいのかなということ、中学生自体の人数は増えませんが、下の小学生と関わることで、いい面だと感じました。もう一つは、小学校と9年間、系統立って教育ができるという点です。今、小学校と連絡をとりあっているのは、一番は小中連絡会です。小学校6年生が中学校にスムーズに入学できるように、年3回、連絡会やっています。しかし施設が離れていたり、それぞれの学校のいろんな用事があるので、年3回しかできません。そんな点で十分とは言えませんが、これが施設一体型になれば、小学校と中学校の先生がより緊密になって、9年間の子ども達を一緒に見ながら育てていくことができる。それから同じようなことで、ふるさと学習というのが小中一貫校ではよくやっています。本村でも小学校、中学校、それぞれバラバラですけども南牧のふるさと学習をやっています。それがバラバラですので、系統立っているかというところ、そうっていない。そんな点で小中一貫になると、そこが系統立って行くことができる、そんないい点があります。それから小中一貫校と義務教育学校は違うんです。小中一貫校というのは佐久穂小中学校のように、完全に一つの学校の中に小学校と中学校があるという縛りがある。一緒には居るんですけども、こんな縛りがありま

す。例えば、中学校の先生が小学校へ行って授業を教える、小学校の先生が中学校へ行ってお互い教える場合、中1ギャップや小学校6年生から中学校行った時にいろんな中1ギャップを起しちゃうのをなくすために、お互い先生たちが交換にやればいいんじゃないかというんですが、実はそれができないんです。どうしてできないかというと、一緒には居ても一つの小学校、一つの中学校ですから、仮に中学校から理科、数学の先生が5時間行った場合、小学校から5時間の授業を中学校へ行ってやらなければいけない。ところが小学校の先生はほとんど担任ですから、中学校へ行って授業するなんてことができません。また、小学校の先生は中学校の免許、中学校の先生は小学校の免許持っていないければ授業できません。そんな点で一貫と言っても非常に難しいところなんですけれども、その点でいいのが義務教育学校です。義務教育学校というのは1つの学校で、小学校も中学校も一つの学校です。つまり、小学校の免許だけの先生はそこには入れません。小・中学校の免許を持っている先生だけが配置されます。ということは、さきほどのように小学校の免許だけの先生は中学校へ行けない、中学校の免許だけの先生は小学校へ行けないということが解消されるわけです。そんな点でゆくゆくは南牧村でも小中一貫校になっても、次の段階としては、私としては義務教育学校の方が非常にありがたいかなと思っています。同じようなことで、今小学校でも騒がれていますけれど、英語科が教科化になります。今まで小学校の5・6年生は英語必修という形で、教科書もない形の英語でしたが、新しい要領では5・6年生は教科化になりますから英語の授業を教わるわけです。ところが小学校の先生の中には、英語の免許を当然持っていませんから、今の大学生辺りは授業の中にも英語があると思うんですけれども、私も小学校の免許を持っていますけれども、小学校の英語の授業は教わりませんでした。ですから2020年から小学生5・6年生の英語の授業が始まります。その時に例えば、南牧村が義務教育学校になった時は、小学校の英語の授業に中学校の英語の先生が行けるわけです。そうすると自信を持って小学生に英語を教えられるというような効果がある。それから中学生とすれば、こんな点もいいなと思うんですけれども、小学校にはボランティアで地域の方がいっぱい参加してくれます。中学校には、なかなか敷居が高いので地域の方が参加するという事は少ないです。ところが小中一貫になった時に、小学校のボランティアに來たり授業参観に來たりしたときに、中学校も一緒に見てくださいという形で、中学校も小学校と同じに地域の方に見てもらうことによって、子ども達も村の方から支えられている、見られて育っていくかなと感じております。いっぱいありますけれど最後にしたいと思いますけれども、特に中学校に抱えてる問題は、生徒数が少ないために部活の面で非常に苦勞しております。なかなか団体で試合に出れない。または試合に出てもぎりぎりの人数ですから、なかなか佐久大会から次の東信大会に出れない。ところが小中一貫にした時には、一つの学校として5・6年生から部活を一緒にやっている。そうすると、5・6年から早く部活を始めた時には、それだけ技能も上達しますから、人数少なくても、普段は3年間の部活が5年間の部活動でそれなりに技能が伸びるんじゃない

かなと、そんないい点を感じています。厳しい点もいろいろあるかと思うんですけども、今、私が言った点はいいい点だと。それは実際はやってみないと分からないんですけど、頭の中や訪問した学校で聞いたことであって、100%そうなるとは言えないですけども、そんないろんなメリットがあることも事実だと思っています。

**渡邊 会長** はい、ありがとうございます。それでは小学校の面から矢野校長先生お願いします。

**矢野勝彦 委員** お世話になっております。北小学校校長矢野と申します。ご指名でありますので、私からは小学校から見た、この村の三校の学校をどうしていくかということをご一緒に考えていく、そんな視点で今、これからお話させていただくことが、皆さんの今後どのような学校づくりにご参考になればと発言させていただきます。そもそも小学校、中学校の子ども達のことを考えるわけですので、一番おおもとを考えてここに共通基盤を持ちたいと考えています。村内全ての児童が集まるということ、それは全村民の目や思いが一つに集まるということだと思います。一人ひとりの児童生徒に村の皆さんと学校の力を結集した教育ができるかどうか。そういうことではないかと思えます。さて、基本的に私たちが子どもを育てるということは、愛情や生活習慣といったものは、やはり家庭教育が中心になっていく。これはとても大事だと思いますし、保育園、小学校、中学校といった学校関係では、社会性、人間関係力とか学力を中心に、その両輪のまん中で子どもは育っていくということ。そこを今の3つの形か、一つにまとめていくか。村の子ども達をどう育てていくか。そこに私達はしっかりと思いを寄せていく必要があると思っています。学校でも家庭でも、子どもが健やかに育つために、さきほどのようにいじめが9年間続くのではないか。そんな恐ろしいことはあってはならないわけですけど、そういったことを起こさないために、また仮に起きた時に素早くその子を守り、そしていじめをした側も共に学び得る、そんなことも見つめてみたいと思います。メリット、デメリットと直接関係ないことを少し述べさせていただきますが、そもそも学校で何を育てるかというところを考えていく必要があろうかと思ひまして、少し話させてください。学校でも家庭でも相手と円滑な人間関係を作るために、例えば挨拶などを基本としたコミュニケーション能力、これは大人になるために必要です。多様な人間を認め、人を差別的に判断しないかを、私たち大人が子どもに教えなければなりません。善悪の判断に欠かせないモラル、マナー、ルール、私達にその区別があるかどうか。しっかりとそれを理解した上で、より良い子どもたちの教育、それを、生きようとする規範意識と言ってもいいと思います。規範意識を育てることも必要だと思います。必要とされ認められているということ、子ども自身が自覚できる学校と家庭と地域に。それを自尊感情といいますけれども、自分を大事にできるという自尊感情。楽しさや苦しさを体で感じる様々な運動。あるいは勤労的な、畑の仕事、学校の掃除もそうかもしれません。そういった勤労的な活動。それを9年間見通して子ども達に環境を用意する。それぞれのお子さんの特徴、それが一番お父さん方一番親として心配になるところ大き

いところですが、お子さんはそれぞれ皆、百人百様です。学力の伸びも学力を身に付ける一つ一つも、それぞれのお子さんの特徴と深く結びついています。そうしないと百人が百人エンジニアになったとか、百人が百人スポーツ選手になるとか、そういうことと違ってくるといことで学校が大事になってくること大きいと思います。そのようなことを現在では、地域の皆様もその一翼を担っていただいて、家庭、地域、学校の真ん中に子ども達がいって、暖かく、時には厳しく接することが欠かせないと思います。さて、現在の北小の状況から、お話を少し変えさせていただきます。1年生を例に考えてみたいと思います。現在南小は20名の1年生、北小は7名の1年生、計27名になっております。一つになっても1学級であることに変わりはないわけですが、27名で生活する彼らの行く末を考えてみたいと思います。北小7人、南小20人です。その時に私が考えるに、全ての同年齢の仲間との関係が持てるということ。北小の7名だけの関係で終わらないということ。これは彼らが大人になった将来、お互いをよく知る仲間として、このふるさと南牧村を基盤に支え合い、助け合う人間関係が絆が強まっていくことにならないかと思います。次に北小1年生の6年間の小学校生活を見通したとき、7名では自分の友達との関係は6本の糸となります。保育園時代以上に結束力が高まっていくでしょうし、担任のきめ細やかな指導も可能な部分はあると思います。それは、とても大きな魅力だと思います。しかしその一方で、様々な学習や生活など、意見や考えを交わす相手の固定化ということは、どう考えていくべきでしょうか。その固定化と糸の少なさによって、共に育つ多様な学びが低調なものになってしまうとしたら、あるいは児童会を始め運動会、音楽会の運営、7名の子ども達が下級生の力を借りるなどしてやりくりをしていくような。そんなところにも学びはあると思いますが、その1学級というものを、村全体で考えていく必要はないだろうかということ。そんなところを私としては思ってしまう。3つ目として、発達障害の心配がある特別な配慮を必要なお子さんが北小にもあります。決めつけるわけではありませんが、特別な配慮が必要なお子さんおるのは、私達も今全力を挙げて取り組んでいます。ご承知のとおり本校は特別支援学級がありません。学級設置には県の示す基準がありまして、来年度を考えても、プライバシーの保護から多く申し上げられないことあるわけですが、設置には乗り越えるべきハードルがたくさんあります。決して楽観的ではありません。特にそのようなお子さんが、学力、健康、心を守り育てる上で、教育の知識だけでは対応しきれないことが多くあります。医療や療育の専門家の連携、そこで得た貴重な情報や助言は欠かせません。これらは私たち学校だけが知ればよいということではありません。誰よりもそのお子さんを一番大事に思う保護者の皆さんと共にその情報を共有する必要があります。今、北小が特別支援学級が無いという現状の中で、また、アレルギーもそうですよね。健康上の問題、理由から命を守るということも極めて大切なんですけれども、そうした北小の現状を考えて行くと、村にとって学校統合の問題は、村内の小中、全児童生徒の大切な情報が一つに集まるというメリットを、やはり持っているのではないかなと考えざるを

得ません。どの子にも同じ条件ででき得る限りの可能な教育が保障されると考えたら、一つにまとまる意義は、いかがでしょうか。9年間を見通した支援について、村の保健師や教育委員会との連携も大変しやすくなると思います。何より中学校との時間的なロスが少ない連携が、小中でできるかなと思っています。大切なお子さん一人ひとりへの支援が、今まで以上に有効に働くという部分が、これはやはり学校の中にいる者だけではなく、ここに集まっている皆さんをはじめとする村内の皆さんのお力が必要になると思います。さらに小中の持続や連携に目を向け、小中一貫型の学校を考えた時、学校や家庭レベルの学習に系統性を持たせられることがあります。小中の教員が常に目の前にいる子ども達の学習や達成状況や課題を掴むことができる。指導計画や授業、学習教材の改善に小中の先生で望むことができる。そんなことを描くことができないでしょうか。小学校1年生の子ども達の様子を中学校の先生が知っている。他の学校のように1学年3クラスから4クラスの学校を考えた時、中学校の先生方がその1年生全員を知っているということは、大変困難です。100人以上の子どもを。しかしながら南牧村の、例えば1年生27名の子ども達を中学校の先生が知ることはできないでしょうか。困難ではないと思います。学年1クラスだからできるメリットかなと。そういう可能性が高いと思います。さきほどのように2020年度には小学校でも英語が教科として導入されます。小学校から英語が教科として始まるんですね。英語の免許を持つ教員は、小学校にはほとんどおりません。そこを小学校がやるということになったら、私達も力を頼る部分がどうしても出てきます。それは中学校の先生方です。常にそういった小中の連携の中に、今後、日本の教育が進んでいくんだということを私達も意識して、この村の子ども達を育てていく必要があります。信州型コミュニティスクールということばをお聞きになったことがあるでしょうか。現在は地域の応援リソース、人材、資源を三校独自の下でお世話になっています。村の大切に考えているふるさと学習を通した南牧村を愛する人材の育成という意味で、私の勝手なアイデアの一例ですけれども、例えば小学校のうちは地域の皆様の理解と協力を得ながら畑で作物を育てて売ってみたりとか、農場で動物と関わって命の重さを知ってみたり、五感で小学生のうちに体験学習を重ね、思春期や青年前期が重なる、そういったお年頃の中学生には、地域の特色を知識として大いに学んでもらい、さらに今度は自分の生き方を考えたり、将来像を描いたりする学び。中学校でそれを狙うことで、中学校卒業後の高校進学や、その先の人生を大切にしようとする子ども達を、9年間育てていくということはいかがでしょうか。3校が姿を変えていくことによって、そのメリットとデメリットは、私のような学校の内部にいる者が一つ一つを申し上げるということは、なかなか難しい立場にあります。しかしながら、9年間の子ども達の成長を意図的に考えていくということに希望を持ちたいと思います。以上で私の意見を終わります。ありがとうございました。

**渡邊会長** はい、武井校長先生。

**武井晃 委員** 一つ言い忘れたもので、学校の教員数というのは、学級数で決まるわけです。

今の南牧中だと、1年生も2年生も2クラスあるわけですがけれども、国基準というのは40人が1クラスです。つまり南牧は全部40人以下ですから3学級ということです。それと特別支援が2つあるので全部で5学級。それに伴って教員が配置されるわけです。ところが配置する先生では、10教科は間に合いません。つまり配置される先生だけで、全教科教えることはできないということです。例えば家庭科だと、1学年1クラス週1時間だけです。全クラス1時間やっても週5時間にしかならないわけです。英語や数学の教科は時数が多いので、家庭科の先生を一人いただいても週5時間だけで、ほかの教科ができなくなってしまう。そこで今、中学校では苦勞してどんなことをやっているかという、一つは村から3人の教員をいただいております。それでも教科全部間に合わないのどうしてるかという、隣の川上中学校と協力して、こちらから川上中学校に来てもらったその分を、川上中へ行って同じ時数を授業しなければいけないという縛りがあるので、うちは今、家庭科の先生がいませんので、免許のある先生はいますけど担任とかできないので、川上中の家庭科の先生に本校の家庭科の授業を全てやっていただいている。その代わりに本校の美術の先生が、川上中行って川上の生徒の美術を全部教えています。そんなような状態が続いています。だから教員の確保ということよりも、さきほど言ったように義務教育学校だと小学校の専科、家庭科の先生が中学校の家庭科教えてくれる。そうするとそれで家庭科を賄うことができる。そんな点からもやはり専科の先生に教えていただくことが一番基本ですので、県もなるべくそうするようにしなさいと。今まではそれでも免許の無い先生に教えてもらわなければいけないということで、県に非免許申請、免許は無いけれどもうちの学校はこういう状態だから、免許は無いけれども許してくださいお願いしますという感じでやっておりましたけれど、今は川上と協力してやっている。そんなような状況ですから、やっぱり子ども達にきちんと免許のある先生がきちんと教えるという意味でも、義務教育学校というのは有り難いかなと思っております。

**渡邊会長** はい、ありがとうございます。今、中学校の武井校長先生話されたように、英語の授業、先生の配置の問題、部活の問題、その点では本当にスムーズにできるのではないかという、義務教育学校にした場合にうまくいくんじゃないかという具体的な。それから矢野校長先生も、本当に具体的な小学校の学年を例に出して具体的な話をいただきました。ありがとうございます。小中一貫、義務教育学校の場合は、さきほど武井先生言われましたように校長先生が1人ということでもあります。それからこれは許可制になっているわけですがけれども、義務教育学校の方がいいんじゃないかという気がしていますけれども。はい、PTA会長。

**嶋崎一尚 委員** 学校側の意見は賜りましたが、保護者のさっきの話聞いていると不安だとか噂だとか根拠のない話に振り回されている部分があるので、できればもし希望者いるのであれば、さっき武井先生とかおっしゃった、いいところ悪いところ含めて視察とか行ったらどうでしょうか。確かに前回の学校づくり委員会ですか、そこでは視察を繰り返

していると思うんですけれども、実際その委員じゃない人の方が多いので、幅広く興味がある人に見ていただいて、僕の場合はPTAの会議で佐久穂中学校行ってきたんです。見たほうが早いです。たまたま下校時だったので、会議室がどこにあるのか分からないので子どもに聞いたんですけれども、どんな感じだと聞いたら、そんなに悪いこと言わなかったし、小さい子がいて楽しいですよと言ってたんですけれども。右も左も分からない状態の人も多いので、実際そういうところを見ていただいたほうが、分かりやすいと思います。それでそれぞれが何かを考えるとしますので、それから話に触れながら説明会やら何やらの形、丁寧に進めていただけたら、きっと多くの保護者の方も納得されると思うので検討してください。

**渡邊会長** はい、教育長。

**井出教育長** はい分かりました。会長おっしゃるとおり実際見てもらうのと、実際違いますので、当然施設も見てもらって、われわれが視察に行ったときには、小中の両方の学校をコーディネートする先生がいらっしゃいました。前の校長先生だったらしいですけども、その先生の都合が付けば、そういう先生にお話するのが一番いいんだろうという気がするし、これから手配させていただきますのでお時間いただきたいと思います。どうでしょう、他の保護者の皆さん。こちらにいる区長の皆さんはすでに見たり、議員の皆さんもそこには行ってらっしゃいますが、今は中学の会長さんのご希望だったんですが、そういう声が多ければセットしたいと思いますが、ご意見をお聞きしたい。

**江川 尚友 委員** 南小の1年の学年の江川と申します。今日、学校の先生などの話も伺えて、少し具体的にイメージが付いたんですけれども、いまだに小中一貫教育というのと義務教育学校や小中一貫型というのがすごく混同して話が進んじゃうので、どこを焦点に話をしてたのかみんなわかんなくなっているんじゃないかなと思って、私自身も今年50なんですけれども、たまたま子どもが1年生にいるおかげで、とても細かく、ここ分かんねえなとようやく最近分かったんですけれども、恐らく子どもがいなけりゃ全くこんなこと分かんないだろうし、小中一貫という言葉だけが独り歩きして、それがどっちのことを言っているのか言ってる本人も分からなくなると思うので、やっぱりQ&Aにも、小中一貫教育は学校関係者だけじゃなくて保護者、地域、教育委員会、行政間が同じ歩調で関わって、そういうふうに関わらない限り小中一貫教育は成立しないって書いてあるぐらいなので、やっぱり時間がないとは解るんですけれども、それでもやっぱり諦めずに、地域の奥さんいらっしゃらない方やいろんなみんなが集まって一つにならないと、とても学校は作れないんじゃないかと思うので、ここの場だけではとても私個人の意見しか言えないくらいなので、できるだけもっと本当に村中と一緒にいかないといけないんじゃないかと思うので、そのためにも今、中学校の会長さんが言われたように、そういう見学会とかも、この委員だけじゃなくて村民がだれでも希望すれば見学会に参加できるとか、村みんなで関わられるようなことがあればというのが一つあるんで。もう一つこないだ専門家の方とかに説明会だとか勉強会だとかをしたらという意見があったので、

私自身も、もしそういうことを実際にやるとしたらどういう人を呼べばいいのかなというのをインターネットで検索したり、いろいろ本も図書館で観たりして、たまたま学校を作ろうという本を2000年ごろ書かれた方がいらっして、その方の本も取り寄せたりしたら、野辺山の図書館にもその方の本があったんですけども、こういう本を作った方で、工藤和美さんという女性の方で、その方はあちこちで講演されていて、私も個人の興味でこの方の設計事務所にメールで問い合わせ、ここの建設の検討委員会の議事録なんかもホームページに出たので、こういうことやってる単なる一介の委員に過ぎないんだけど、例えばこういう講師で来て欲しいってできるんですかと聞いてみたら、そういう要望全国からたくさんあって引く手あまたの状態なんだけれども、ちゃんとした段取り踏んでくれれば説明会でも出れますよ。実際、謝礼とかも村によっては予算が決まってるからそういう提示でできることもあるし、この方たまたま大学の先生もされているので、大学経由でそういうの頼めば講師料も全くなくて、例えば野辺山、海ノ口の駅からの送迎と会場をこっちで用意してあげるだけで先生が講義をしてくれるということもあると聞いたんで、そういうのも一度村民みんなで自分のことだと関わられる感じで地域全体で盛り上がるイベントといたら変かもしれないんだけど、そんな感じに一度向けたら、折角こんなに教育委員会の方たちがたくさん資料くださって、私は委員に選ばれてラッキーだったと思うんですけど、本当にこういう機会でもない人間は、全く一歩目が踏み出せないんで、もっと敷居を低くして百家争鳴で意見がごちゃごちゃになるかもしれないけれど、一度本当にやらない限りはなかなか一つにまとまらないんじゃないかと思うので、なんかそういうみんなと同じ方向むけるようなきっかけが欲しいなって思います。まとまらなくてすみません。

**渡邊会長** はい、ありがとうございます。さきほど教育長言われたようにそういう講師の先生とか見学会とか考える時期が来たら考えていくことで行きたいと思います。

**江川 尚友 委員** もう一つ、そもそもこの委員会の目的が分からないのも意見が出しにくいことかなと思って、一番最初に村長さんは建設場所と時期を決めて欲しいってことを強くおっしゃったように思うんですけど、実際に小中一貫教育が望ましいってところまでは行ってるけれども、実際、施設が分離型なのかということも我々が決めるのかというのとはっきりしないし、私達がまず何をしなければいけないのかという目的がすごくあいまいなので意見が言えなくて、とてももやもやして終わってしまうので。もう少し、ただここに席についてればいいってうだけじゃ子ども達に申し訳ないというか、名前連ねているだけで出席するだけがほんとに意味があるのではないと思うので、もう少し一人ひとり、せっかく委員に選んでいただいたんだったら貢献させてもらえる具体的な目的というか、毎回、次回の式次第いただくんですけども、例えば次回までにこれを宿題にしてこれを意見を言ってくださいよねとか、何かそういったことを出していた方が一歩ずつ進めるんじゃないかと。それでよければ丁寧だと思うんですけど、すごく慎重にされているのは分かるんですけど、もっと手がかりになること1つ

ずつ出していただいた方が、我々もただここに座っているだけじゃなく有意義に。次回までに何か考えることができるんじゃないかな。

**渡邊会長** はい、ありがとうございます。ここにおられる区長さん方は、去年まで学校づくり委員会、校長先生も専門部会までお付き合いいただいたわけでありまして。それで他の方々は初めてということでもありますけれど、去年の学校づくり委員会の答申につきまして会長でありました林会長の方から、小中一貫校について、どういう話が煮詰まったのかお話をいただきたいと思います。

**嶋崎一尚 委員** 答申の話については保護者みんなそうだと思うんですけど、別に反対しているわけでもなんでもないので結構だと思うんですけど。答申は答申で。ただそこから先の話なので、去年の学校づくり委員会の中にもPTA会長やら何やら入っていたと思うんですけど、よくは知らないですけども。今回の検討委員会は、半分は保護者なんですよね。保護者目線で会話する部分、議論する部分と、行政の目線とずれるは生じるので、建設場所だの建設コストだのそういう話は置いて、その前にこの学校はどういうもんなんだということをしっかりわかってもらわなければ、さっきの噂話や不安な部分やらは消えないので、そこら辺を考えていただけますかということです。

**渡邊会長** はい、分かりました。さきほども区長さんからまた元に戻るのかという話もございましたけれども、こうして皆さんの話を聞いていると不安な面も多々あると思います。教育長言われたように、これからそういう面を徐々に勉強なり視察なり、講師の先生に来ていただいて勉強するなり、そういう方向に向けていきますので、区長さん言われたようにまた元に戻るのかというようなことがありますので、ここで林会長に。

**今井澄江 委員** ごめんなさい。ちょっといいでしょうか。北小の今井です。さきほど南小の方が、この委員としてこの会に参加する目的だったりとか、自分たちの役割についてちょっとはっきりしないということをおっしゃられてたんで、その点についてもう一度、最初説明されていたかもしれませんけれど、もう一度はっきりとお伝えいただけると私達もこの会に参加する目的が分かりやすくなって、その点お願いします。

**事務局井出次長** 会長。事務局から説明させていただきます。第1回目の会議説明の際に、この小中学校建設検討委員会の設置要綱というものをお配りして、資料1というものですが、ご覧いただいたと思います。その中の第2条に任務というものがございまして、委員会は、南牧村立小中学校の施設整備等に関し調査及び検討を行い意見を述べる、というものが任務になっています。ですから調査及び検討を行い、その上で意見を述べていただくということでございます。さきほど視察というお話もありましたが、それは調査検討になろうかと思いますが、いずれにしても皆様方の意見をここで出させていただく、それが任務であります。何を決めなければいけないとかいうことは一切謳っておりません。

**今井澄江 委員** 代表として例えば学級の代表として、みんなの意見を集約して来るわけではなくて、個人の意見をお伝えすればいいという感じでしょうか。

**事務局井出次長** これも第1回目に説明したつもりではいるんですけども、それぞれの選出団体等から選ばれてますけども、特にPTA会長さんなんかは前回の学校づくり委員会でもそうなんです、それぞれ所属団体の代表として意見を述べていただくわけはありません。そうなりますと、そのために持ち帰って事前に意見をまとめて、総意としてここで発表していただけるのか、そういうことになりますよね。ほとんどの皆さん意見を述べられない状況になるのではないのでしょうか。ですので選ばれているのは学年部長さん方が選ばれていますけれども、ここで意見を言うていただくのは個人です。

**今井澄江 委員** はい、ありがとうございます。たまたま選ばれた個人の意見で、どこまで決定していくかというところの責任感だったりとか重圧というのは皆さんあるかと思うので、そのあたりが解消できるような機会があったらいいかなとは思っています。ただ自分の役割としては、とりあえず自分の意見を、個人的に思うところをお伝えするというところで理解しました。ありがとうございます。

**渡邊会長** はい、ありがとうございます。それでは、それぞれ一貫校に対する不安もあると思いますので、まず佐久穂小中学校を視察するというところについてですけども、どうでしょう。村会議員の方々、区長さん、それぞれ学校づくりの時にしているわけですけども、学年部長さんやPTA会長さんの中で出席されるような方がありましたら挙手をお願いします。時期についてはこれから考えることにして、勉強したいという方がありましたら。

**上村和加子 委員** すみません。さきほど中学校の先生が義務教育学校の方がいいんじゃないかというお話もされてたんですけど、佐久穂は義務教育学校ですか。

**渡邊会長** 違います。

**上村和加子 委員** この委員会の中の方針が決まってから、それに見合ったところに行った方がいいか、全く白紙のまま義務教育学校、そうじゃないとこ両方見たほうがいいのかどちらがいいんですか。ただ近いから行くとってなっちゃうと無意味になってしまうのかなという感じがします。

**渡邊会長** 義務教育学校と小中一貫校の違い、中身はそんなに変わらないと思います。ただ組織の面で分かれています。校長先生が二人、小学校の校長先生と中学校の校長先生と二人いるわけですよ佐久穂は。義務教育学校は1人なんです。その辺で違うわけですよ。ちょっと教育長の方から。

**上村和加子 委員** どちらを見ても私達には変わりないってニュアンスですか。

**井出教育長** さきほど中学校のPTA会長さんが言って、近くでね。ここは施設が一体型の小中学校です。そこから義務教育学校に発展することができる体制の物を作っています。ですからまずそこを見てもらって、ほとんどイメージ的には同じです。ただそこは中学の校長先生が言うように、義務教育学校になると職員室の中はぐじゃぐじゃに一個になっていくんですが、佐久穂に行ってもらってもまるっきり一つです。中で分けているんだと思いますけれど。ですからそれは発展型でできるようになります。だけでも施

設を作るときにそういうことまで配慮して作っておかないと、あとで渡り廊下で繋ぐとか何かで繋ぐなんてのは全然ダメなことなので、視察に行きたいよという声が大勢あればセットしたいと思います。行っていただくと小中の施設一体型というのは、こんなもんだなとイメージが湧くと思います。その中で校長先生が言われたみたいに授業のカリキュラムだとか、なんだとかはこれから変えられますから、だんだん段階的にやっていくこともできますし、いきなり義務教というところもあります。学校の先生がこれからの指導要領の改正も見込んで、そっちがいいよねと言ってるわけですので、それはまた皆さん見ていただいて、その中でご判断いただけたらと思います。とにかく見てみるというのが、嶋崎PTA会長さん言われるように、行って見ればイメージ的なものがだいたい湧いてくる。これから皆さんに審議していただくのが、小中一貫校でやっていくにどこがいいのか、どれくらいの規模が必要なのかというイメージ的なものも見ていただくと分かってくると思います。

**上村和加子 委員** 行くとしたら、小中一貫ってどんな感じかな、小学生と中学生と一緒に生活するってどんな感じかなという目線で見ればいいですかね。分かりました。

**井出教育長** 私どもこれから向こうに伺うので、さきほど出たように村民だれでも、PTAだれでもという声も出ましたが、受ける側がそれだと拒否反応しますので、できればこの会の皆さんの行かれる方くらいの人数にさせていただきたいと思います。向こうの受け入れる側が迷惑してしまいますので。それはご理解いただきたいと思います。行っていただけると多分、コーディネートしてくれた元教員の先生が来ていただければ、小学生と中学生と一緒に学ぶところの良さとか悪さとかを素直に言ってくれるかだと思います。それは皆さんが質問していただければいいことなので。どの方が対応していただけるかこれから当たってみますので何とも言えませんが。どうでしょう保護者の皆様、そういうご意見であればセットさせていただきますけれど。意思表示を、手を上げろとは言いませんけれども、視察したいなあという方は。挙手をしてください。ありがとうございます。義務じゃありませんので。ではセットさせていただきます。申し訳ありませんけれど、議会の皆さんと財産区の皆さんは、もう視察一回行っております。もしどうしてもという方は結構ですので、是非参加しろとは事務局からは致しませんのでご理解をお願いします。そうなりますと、今お手元に行っている次回開催通知は無しにさせていただきます。8月下旬、9月の中旬になってしまうかな。そこらへんで時間を取りたいと思います。時間的には午後1時半2時頃という形でこちらで移動手段を考えたいと思います。またご案内させていただきたいと思います。では次回は佐久穂町の小中学校を視察するという形にさせていただきます。これから向こう側と調整をさせていただきます。ありがとうございます。

**事務局井出次長** 佐久穂町の視察の時に説明していただける資料ですが、今コピーしますので帰りにお持ちください。事前に見ておいていただいた方が、より分かりやすいと思います。それで次回7月31日は無しということですのでよろしいですよ。そうすると空いて

まいりますので、できればその視察の終わった後に、ここでこの会議をやっていただければありがたいです。学校の給食が終わった1時半とか2時ぐらいから視察して、帰るのが4時とかです。戻ってきて5時からとか長い時間になりますが。そうしないと、では9月下旬か10月ということになってしまいます。

**江川 尚友 委員** これも先方のご都合かと思うんですけども、例えば現地で会議室を使わせていただくとかいうことは。なるべく時間をかけないために現地で見学とそのまま会議を。こちらにわざわざ戻って来ないで向こうで開催することはできないでしょうか。

**事務局井出次長** 私が欲張って言ったのは、その際には視察をされない皆さんも集まっていたきたい。そうしないとこの会議が成立しませんので。ただ視察をした皆さんで感想を述べ合う会ならいいですよ。

**江川 尚友 委員** 会議と見学を別にすること、会議は会議で、見学は見学で。

**事務局井出次長** もちろんまた日を改めてということ是可以可能です。私は欲張って言うてるだけです。

**江川 尚友 委員** 子どもを預けたり児童クラブの時間とかもあるので、仕事もその日は完全にしないと決めないといけないので、なかなか難しいかな。

**渡邊会長** 教育長。

**井出教育長** はい。いろいろとご意見いただいてありがとうございます。時間的には先方とこれから調整させていただきます。会議は別にします。帰ってきて皆さんの感想を述べる、感想を聞きたい場を設けるかもしれません。そうした方が冷めやらぬうちに色々意見を聞いた方がいいかと思っておりますので、そんなところは計画の中に入れてと思います。どうもありがとうございました。

**渡邊会長** それでは長時間、意見をいただきまして、ありがとうございました。今日3回目は以上で閉じたいと思います。次回の会議は未定ということで、また連絡を差し上げますのでよろしくお願ひします。

---

#### ◎閉会の宣告

**林崇介 副会長** それでは今日の会議は、これをもって終了いたします。皆様どうもご苦勞様でした。

閉会 午後8時55分